

1 題材の構想
(1) 身に付けさせたい資質・能力および 児童の実態

	身に付けさせたい資質・能力	児童の実態
知識・技能	歌唱 イ曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりについて気付くこと。 ウ範唱を聞いたり、ハ長調の技能を見たりして歌う 器楽 イ楽器の音色や響きと演奏の仕方との関わり ウ互いの楽器の音や副次的な旋律、伴奏を聞いて音を合わせて演奏する技能 音楽作り イいろいろな音の響きやそれらの組み合わせの特徴 ウ設定した条件に基づいて、即興的に音を選択したり組み合わせたりして表現する技能	リズム打ちに興味関心がある。打楽器の名前と使用方法を知り、よりよい音色を出そうとする態度を育む必要がある。 演奏を鑑賞することを好んで行う。打楽器の音色を聞き分け、演奏のよさや面白さを感じ取り、言葉に表現することは多くない。
思考力・判断力・表現力	歌唱・器楽 ア歌唱表現・器楽についての知識や技能を得たり生かしたりしながら、曲の特徴を捉えた表現を工夫しどのように歌うかについて思いや意図をもつこと。 音楽作り ア即興的に表現することを通して、音楽づくりの発想を得ること。	即興的に表現する活動はや音色の違い、音の組合せによって生まれる面白さを感じ取らせる体験は、十分ではない。
主体的に学習に取り組む態度	進んで音楽に関わり、協働して音楽活動をする楽しさを感じながら、様々な音楽に親しむとともに、音楽経験を生かして生活を明るく潤いのあるものにしようとする態度を養う。	演奏のよさや面白さを感じ取り、友達の音を聴きあいながら演奏することを楽しみにしている。音の重なりや拍の流れを感じ取る活動は、多くない。

(2) 目標
ハ長調の楽譜に親しみ、音程に気を付けて階名で視唱したり、視奏したりして、読譜に慣れる。
自然で無理のない歌い方に親しみ、友達といっしょに歌う楽しさを味わう。

(3) 評価規準
【知識・技能】
・ハ長調の楽譜を読み取り、音の高さの違いに気を付けながら階名で歌ったり演奏したりしている。
・歌詞の内容や曲想に相応しい表現で歌っている。
・ハ長調の楽譜を読み取り、リズムに気を付けながら階名で歌っている。
・ハ長調の楽譜を見て、ポジションに気を付けながら鍵盤楽器を演奏している。
・伴奏や互いのパートを聴いて、拍の流れにのって歌ったり演奏したりしている。
・歌詞の内容や旋律、フレーズに気を付けながら曲想にふさわしい表現で歌っている。
【思考力・判断力・表現力】
・音の高さの違いや旋律を聴き取り、その特徴を感じ取りながら、歌詞の内容や曲にふさわしい表現を工夫して、どのように歌うかについて自分の考えや願いをもっている。
・歌に合う音を選び、試行錯誤しながら即興的に旋律をつくっている。
【主体的に取り組む態度】
・ハ長調の楽譜に興味・関心をもち、視唱や視奏をする学習に進んで取り組んでいる。
・発音の仕方に気を付けて、曲にふさわしい自然で無理のない歌い方で歌う学習に進んで取り組もうとしている。

(4) 題材計画および指導方針（8 時間予定）

時間	ねらい	評価項目（評価内容及び評価方法）	【学びの必要性】なぜこのことを学ぶのか？	教材名・領域
1	「音の高さに気を付けて、明るい声で歌いましょう」	【態度】ハ長調の楽譜に興味・関心をもち、視唱や視奏をする学習に進んで取り組もうとしている。(行動観察・表情観察・発言内容・振り返りシート)	音符の中に書かれているドレミや歌詞の中にある“ドレミ…”を活用し、楽譜を見てハ長調の階名に親しみ、縦線、終止線、小節も楽譜から探し、楽譜に親しむ活動に取り組ませることに有効である。	「ドレミで歌おう」A表現（歌唱・器楽）
2	「音の高さに気を付けて、階名でも明るい声で歌いましょう」	【態度】発言の仕方に気を付けて、曲想にふさわしい自然で無理のない歌い方で歌う学習に進んで取り組もうとしている。(演奏聴取、発言内容) 【思考】音の高さの違いや旋律を聴き取り、その特徴を感じ取りながら、歌詞の内容や曲想にふさわしい表現を工夫して、どのように歌うかについて自分の考えや願いをもっている。(発言内容・演奏聴取・行動観察) 【技】歌詞の内容や曲想にふさわしい表現でうたっている。(演奏聴取)	春の季節の情景が歌詞に描かれ、親しみやすい旋律の特徴を生かし、音の高さや柔らかな明るい声に気を付け、友達どうして聴き合いながら歌い方を工夫することができる。	「春の小川」A表現（歌唱）
3				
4	「楽器といっしょに明るい声で歌いましょう」 曲の感じをつかんで歌ったり、拍の流れを感じ取ってリズム打ちをしたりできる。			
5	音色の特徴を生かして、音の組合せや重ね方を工夫できる。	【技】ハ長調の楽譜を見て、ポジションに気を付けながら鍵盤楽器を演奏している。	アとイを重ねて演奏すると綺麗に響き合う教材である。アは弾むようなリズムで作られ、イはこれまでの学習を生かして階名を書き入れてのびやかなリズムでつくられた旋律の特徴を生かして鍵盤楽器で演奏できる。また、イの最後の2小節を使って旋律づくりの活動を通して、旋律の特徴を楽しみながらアとイを重ねて演奏することができる。	「海風きって」A表現（歌唱・器楽・音楽づくり）
6 本時	せんりつづくり	【思考】歌に合う音を選び、試行錯誤しながら即興的に旋律をつくっている。(旋律づくりの記述内容・演奏聴取)		
7	楽器の音色の違いに気を付けながら、歌に合わせて演奏する。	【技】伴奏や互いのパートを聴いて、拍の流れにのって歌ったり演奏したりしている。(演奏聴取)		
8	「拍のながれにのって、明るくのびのびと歌いましょう」	【技】歌詞の内容や旋律、フレーズに気を付けながら曲想にふさわしい表現で歌っている。(演奏聴取)	各フレーズ最初の4分休符を感じ取りながら、手遊びを加えて楽しく歌い、友達と互いの声を聴き合い、みんなで明るい声で歌う楽しさを味わうことができる。	「茶つき」A表現（歌唱）

